



成長のチャンスは、『過程』にあり。いかに、現実の自分と向き合うか。 ～粘り強さや忍耐強さは、潜考(落ち着いて、静かに深く考える)することで育まれる～

校長 北山 勝 則

平成27年度がスタートして、2ヶ月が過ぎました。新しい教職員を迎えた新任式では、歌あり演奏ありモノマネありのパフォーマンスに、生徒大爆笑。湊中教師軍団のパワーアップを予感。入学式は、緊張気味の新入生127名を迎え(全校生徒数401名)、威風堂々の演奏の中、校旗が入場し、厳粛な雰囲気の中で始まりましたが、PTA会長の祝辞で「あったかいんだからあ」の替え歌が披露されると場内に大きな拍手が巻き起こり、楽しい雰囲気に一転。と共に、湊中パワーアップの実感。

3年生の修学旅行では、生徒会が取り組んでいる「BTRプロジェクト(場を清め、時を守り、礼を正す)」の成果を発揮。ほぼ完璧に集合時刻を守り(一部、女子が消灯時刻を守れないで雷が落ちたけど…)、どここの場所でも笑顔でさわやかなあいさつを実行。特に、ホテルをチェックアウトした後の整理整頓状況や生徒個々が書いた感謝のメッセージについて、43年前に湊中を卒業した東京在住の女性から湊中生を褒め称えるお手紙をいただき、本当の意味で場を清めている3年生達の成長と人柄の良さを確認。それにしても、2日目の夕食後に生徒が企画した大宴会、学級ごとの出し物も大爆笑でしたが、学年全員で「風は湊から(風は西からの替え歌)」を熱唱しながら全員のジャンプが床を振動させ始めたときは、従業員と目を合わせないようにしている湊中職員集団がいました。途中でストップしなかったホテルの皆さんに感謝。

2年生の30kmウォークでは、前日の台風が嘘のように晴れ上がった。当日気温が急上昇したにもかかわらず、ニコニコ笑顔で余裕の完歩。予定より30分も早く学校へ到着。体育館で豚汁とおにぎりとアイスクリームを完食。疲れた表情を微塵も見せず、体育館を走り回る元気。(なんぼ、タフだべ。でも、このたくましさ、すご〜い。)そして、次の日は雨ザーザー。天も味方にしてる一。改めて、たくさんの保護者のご協力に大感謝。

1年生の宿泊訓練は、「行きはよいよい、帰りはこわ

い(疲れた)」という印象。生徒へインタビューすると、どの生徒も「楽しかったー」の回答。学年スタッフからは、「なかなかやるじゃん1年生」の報告。気が利く生徒が多く、働き者学年。サボる生徒がいない。自炊活動は予定より30分も早く終了し、レクリエーションもしらせる生徒がなく皆で盛り上げている。でも、ケンカがちょこちょこ発生し、どこかで誰かが泣いていたとのこと。人間関係のぶつかり合いは大切。学校は集団を学ぶところだから。さすがに帰校式では、まぶたが重たそうで、舟をこいでいる者も多数。よく頑張ったね。将来有望な1年生達よ。

さて、1次テストも終わり、全校、市中体夏季大会モードになっています。言うまでもなく、運動部にとっては、中学校部活動の集大成です。指導者にも熱が入り、延長練習や練習試合等でへとへとになると思いますが、その疲労困憊の日々の中で、何を考え、何を感、何を学びとってくれるのかにこだわりたいと考えています。つまり、『過程』に成長のチャンスあります。数々の成功体験や挫折体験をただの事実として終わらせるのではなく、その理由を考え、次の行動を自分で決めてもらいたいのです。その積み重ねが、「自信」となり「実力」となっていくと思います。言い換えれば、練習の中にどれだけの本気が入っていて、本番と同じ状況で取り組んでいるかです。これは、スポーツだけでなくすべてのことに通じています。そして、これを実行することは、自分との戦いが始まります。苦しいときにやれない理由を探したり、どうせ自分はダメだからと諦めたりしないで、だからどうするかを考えてコツコツと取り組み、徐々に実力を高めていくことを切望します。

今年度の学校経営基本方針です。昨年度と大きく変わったのは、学校目標です。活動的な湊中生に、潜考する(静かに落ち着いて考える)機会を設けたいと思います。

1 校訓 「自律」「創造」「奉仕」

2 教育目標と努力目標

《教育目標》

- ① 自ら学ぶ生徒 (知)
- ② 思いやりのある生徒 (徳)
- ③ たくましく生きる生徒 (体)

《努力目標》

- ① 目標をもって学ぶひとになろう
- ② 人の気持ちのわかるひとになろう
- ③ 進んで活動するひとになろう

3 学校経営基本方針

『学校は、笑うところ。学校は、感動するところ。そして、学校は、成長するところ』

生徒一人ひとりの確かな成長を保障するため全教職員が意識を合わせ、方向性を一つにし、生徒の発達段階にあわせた仕掛けをしていきたい。その根底には、目の前の子どもを何とかしたいという「人間愛」や「情熱」と、自分がやらないで誰がやるという「プロ意識」と「責任感」が望まれる。生徒のことを考えた、生徒のためになる指導から、自己肯定感や有用感を高め、自己理解と自分をコントロールする力を定着させたい。そして、他者を思いやる気持ちと将来を見通す力を育てたい。

(1) 目指す学校像

- ① 挨拶がこだまし、笑顔があふれる活力のある湊中
(生徒会活動、部活動での基本的な生活習慣の仕掛けを意識して)
- ② 学習の基礎・基本の確実な定着に、生徒も教師も意欲的に取り組む湊中
(低学力生徒への相乗的な支援体制、特別支援的思考を段階的に意識して)
- ③ お互いの価値を認めあい、優しさを共有し、安心して通うことができる湊中
(行事や日常生活の中でのふれあい、発見、感動、偏見排除を意識して)



(2) 目指す生徒像

- ① 粘り強く学習に取り組み、向上心に満ちた生徒(自ら学ぶ生徒)
- ② 他者の役に立つことに価値を見だし、命の尊さが分かる生徒(思いやりのある生徒)
- ③ 強靱な精神と身体を備えるために、忍耐強く取り組む生徒(たくましく生きる生徒)

4 学校課題 ～生徒の変容のための重点的実践事項～

- ① 教師力向上の場面設定(生徒指導や特別活動だけでなく、授業力・経営力・対応力等)
- ② 学習内容の定着と上位層対応(ユニバーサルデザインの継続と発展課題の設定)
- ③ 他者を思いやる心の育成と伝え方(一体感や成就感からの自己理解と他者理解)
- ④ 粘り強さやたくましさの育成(挫折体験等からの自己特性理解)
- ⑤ 規範意識の醸成(横断的な道徳の実践と、役割分担によるチーム対応)
- ⑥ 保護者の子育て当事者意識向上(子育て不安からの過干渉や放任の自覚と連携体制)
- ⑦ 地域の学校支援意識の活用(地域行事への参加と情報発信)
- ⑧ 疾病治療率の向上(2週間に1日は、治療優先の日を。部活を言い訳にさせない。)
- ⑨ 体験や指導から学んだことの行動化(潜考により、自己理解、定着、継続的行動化)

5 平成27年度学校目標(今年度の目標)

「静」と「動」を使い分けられる生徒の育成

[重点施策]

- 1 生徒の発達段階に合わせた指導の実践
 - ① ユニバーサルデザインの視点を生かした教科、領域への取り組み
 - ② 全校一斉コンテストの効果的な取り組み(スペリング、計算)
 - ③ 「自主勉ノート」内容の質の向上と家庭学習の習慣化
- 2 隣人と支え合い、認め合える集団づくりの推進
 - ① 行事や部活動等の体験活動の意味づけと支え合える集団づくり
 - ② 横断的な道徳教育の実践と「心のノート」の活用の工夫
 - ③ 教え合い学習や支え合い活動を通じた連帯感の育成
- 3 基本的な生活習慣の定着と継続的な活動意欲の高揚
 - ① 挨拶・返事・後始末などを定着させる指導
 - ② 活動の意味と成果を考え、自己理解と自己有用感を高める指導
 - ③ 失敗にめげず、何度もチャレンジし続けるたくましさの育成

